

# 和良の郷だより

桜餅号

和良おこし協議会発行



# 市長とふれあい懇談会

## 自然と住民の温かさが和良の魅力

3月22日(月曜日)、日置敏明 郡上市長を和良おこし協議会施設「わらおこし」にお迎えして、移住者とのふれあい懇談会を開催しました。



(懇談会冒頭の所長あいさつ)

冒頭、和良振興事務所岩尾尚人所長のあいさつの中で、和良町においても人口の自然増減は確実に減ってきているが、社会増減は郡上市内の各地区のなかで唯一プラスとなっている。これは移住推進の結果であり、

その後は、移住された皆さんと市

唯一和良が増えている現状がある、との紹介がありました。その後、和良おこし協議会が取り組む移住促進事業に関する報告をさせていただきま

した。平成27年度より活動を始めた移住促進事業において、相談件数は毎年増えており、毎年5〜7世帯の移住があります。本年度は63件の移住相談を受け、移住をされたご家族は5世帯でした。コロナ移住が多いとよく言

われているが、相談を受けた中で感じたのは、これまで移住を考えていた人たちが、「コロナをきっかけに背中を押されて地方を目指す」という背景があるのではないかと

うことです。

長さんとお話を楽しんでいただきました。この日集まっていた方は、6家族10名で、赤ちゃんお子さんも連れて来てくれました。平日とあって時間に都合がつく方にお願いました。なかなか楽しいメンバーが集り、それぞれの自己紹介と移住前や出身地などのご紹介と和良に来たきっかけなどをお話いただきました。

移住2年目にパン屋さんを開業されたご夫婦。和良に来て3人目のお子さんが生れたご家族。もともと郡上に縁があり、地域おこし協力がきっかけで和良にきた方。現在地域おこし協力隊で活動している方。最初は冬場だけの住家を求めてやって来たはずが、ずっと住み続け、ついに旦那さんと出会い、2人で暮らしている女性。また、田舎暮らしを求めて岐阜県近郊エリアのなかから和良を選び、農業を営んでるご夫婦。

皆さんが口をそろえて話されていたことは、来るまで和良のことは知らなかったが、和良は自然豊かで子育てする環境にとっても良い。さらに、周りの人からの優しさに包まれた感じがするとのこと。それを受けて市長さんは「和良へ来る際、峠を越えてくるが、ここへ来る

別天地というか、いいところという感じがある。郡上市内も色々あるが、和良というところはいいところだと思っている。ただ、交通の便が悪いというところもあるが、まずはよく郡上へ来ていただいたなあと感じます。本当にのびのびと思っている。「また、何か注文があればお聞かせいただきたい。」とも言っていたいただきました。特に注文のよつなものはありませんでしたが、「子供が大きくなってから、同級生がいるかなあ?」と心配する声がありました。

和良町に新しい方を迎えられる、地域の人も喜んでいただいております。地域に元気をもらっていると強く感じます。また、人なつっこい性格の和良の人たちのおかげで移住に取り組む苦労も殆どないと感じています。きっと生活していく中で苦労や困りごとも出てくると思いますが、そんな時に周囲の人たちと一緒に和良おこし協議会も寄り添っていただけらと思います。



(懇談会の様子)

## 大阪産業大学 卒論発表会

3月20日(土曜日・祝)、大阪産業大学 川田美紀研究室の卒業生による、卒業論文発表会を開催しました。本年度はコロナ禍のため調査実習も見送られ、発表会も中止となっていたのですが、大学側の図りもあり、卒業式後とはなりましたが、開催出来ることになりました。また、オプザーバーとして四天王寺大学五十川飛暁先生にもご参加いただきました。急な日程調整とあって、なかなか周知が出来なかったのですが、多くの方に集まっていたいただき、発表後は意見交換することが出来ました。発表された方々、発表お疲れ様でした。そして、ご卒業おめでとうございます。皆さんが社会に出て和良に遊びに来ますと言ってくれたことが本当に嬉しかったです。



(発表を終えてにこやかな学生さん達)



# 地域おこし実践隊 活動報告

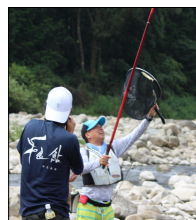
昨年4月に和良に移住し、地域おこし実践隊として活動してきた一年を振り返ります。

まずその前に地域おこし実践隊・協力隊とは、地方へ移住をし、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PRなどの地域おこし活動に従事する取り組みのことで、地方自治体から委嘱され、令和元年度は全国で5千4百人ほどが活動しています。郡上市では現在10名がそれぞれの地域で活動しています。

和良町での活動内容は地域資源を活用した体験型ツーリズムの推進、「和良の郷だより」の発行、ホームページ、SNS等の情報発信などです。

4月の着任早々、新型コロナウイルス感染症の感染者数が増え、4月16日には全国に緊急事態宣言が発令されました。体験型ツーリズムへの影響が懸念されましたが、5月25日に宣言が解除され、感染症の予防対策をしながら初心者向けの鮎釣り教室を開催することができました。

私もこれまで鮎釣りをやったことがなく、初めて友釣りに挑戦しました。おとり鮎に逃げられたり、指にハリが刺さったり、バタバタしながらも、なんとか初めて釣ることができた時は嬉しかったです。鮎釣りの教室に参加された方も苦勞しながらも友釣りの楽しさを感じていただけの様子で、後日、和良を再訪されて鮎釣りをされた方もいました。「協力いただいた漁協組合の方々、ありがとうございます」。



(鮎釣り教室)

8月22日に「はざこ探検隊」(オオサンショウウオ観察会)を開催し、午前と午後の回合わせて21名の参加がありました。岐阜大学地域科学部向井貴彦先生を講師に招き座学を行った後、和良川に移動し、オオサンショウウオの姿を探すとこの企画は親子連れでの参加が多く、探検隊終了後も川で遊ぶ姿が見られました。

私も和良に来て、初めて野生のオオサンショウウオの姿を見た時はその存在感と見た目にそぐわない俊敏さに驚きました。写真を撮ろうと防水カメラを近づけた瞬間、ものすごい速さでカメラに噛みつかれたこともありました。

昨年度初めての企画として、「ばんどり探検隊」(ムササビ観察会)を2回開催しました。講師の池戸浄二さんにムササビの生態、特徴をわかりやすく説明していただき、観察地のフィールドワークを行った後、ムササビの観察をしました。かわいいムササビの姿や迫力のある滑空姿を見ることができ、参加者の方々は満足げな顔で帰られました。

昨年度、イベント開催にご協力いただいた方々、ありがとうございました。今年度も感染症対策をしながらイベントを開催し、より多くの方に和良の魅力を伝えていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



(ばんどりの探検隊)

(はざこ探検隊)

# 和良SDGs研究会

3月12日(金曜日)、和良町において「和良地域SDGsモデル農林業普及振興研究会」の発足会が行われました。

国連が提唱するSDGs(持続可能な開発目標)の浸透に向けて、日本国政府、与党・野党ともに連携を進める中、民間事業者による、地域再生も踏まえたモデル事業が必要とされています。そんな社会背景を踏まえ、SDGsの主要テーマでもある「環境に負荷をかけない」有機JAS認証の「ハルカインターナショナル」による農林事業が展開されている郡上市和良町で、行政と民間事業者等が連携を深めながら、地域再生、地域振興に繋がるSDGsモデル農林事業の推進についての研究会が発足しました。

研究会事務局は、発起人で循環型農林業プラットフォームの合同会社「清流日本」代表の野村克之さん。出席者には株式会社ジャパンバイオフィアームの小祝政明氏をはじめ、株式会社花ころ、十六銀行、岐阜県林政部、岐阜県郡上農林事務所、株式会社ハルカインターナショナル、和良振興事務所、そして和良おこし協議会も出席させていただきました。

株式会社ハルカインターナショナルは菌床キノコ生産販売では唯一の有機JAS認証取得企業です。おいしくて安心安全なクラゲ、しいたけなどのキノコ生産が行われています。また、高級食材であるアミガサダケやキヌガサダケの人口栽培にも初めて成功しました。プータン王国でキノコの実証栽培の成功や、菌床を活用した砂漠緑地化ビジネスにも取り組んでいます。

## イベント掲示板

**2021四河川合流文化展**  
〈第一回〉漫画家矢口高雄さんの  
川心を探る  
第1部 今昔おもしろ魚捕り  
第2部 矢口高雄名作朗読会  
日時：4月18日(日) 13:30  
場所：わらおこし  
参加費：1,000円  
申込先：090-8736-7318  
主催：岐阜の川人文化研究会

**ろうけつ染め体験教室**  
日時：4月6日(火) 9:30  
場所：わらおこし  
講師：岡田明彦先生  
参加費：3,000円  
材料費：3,000円から  
申込先：0575-77-2277

## 和良町の人口

令和3年3月1日現在

